

令和 7 年度 第 1 回鹿島市水道事業審議会 令和 7 年 9 月 3 日（水）

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要について

（目次）

■業務量

（1）配給水状況 P.1

■収益的・資本的収支の状況 P.3

■収益的収支の特徴

（1）収支の比較 P.4

（2）収入の内訳 P.5

（3）水道料金改定による影響 P.6

（4）支出の内訳 P.7

（5）当年度純利益 P.8

（6）給水単価・給水原価 P.8

■資本的収支の特徴

（1）収支の比較 P.9

（2）収入の内訳 P.10

（3）支出の内訳 P.10

（4）収入額が支出額に不足する額 P.11

■経営指標 P.12

■管路更新の進捗状況 P.14

■今後の課題 P.15

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 業務量

(1) 配給水状況

決算書P21参照

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
年度末給水人口 (人)	23,888	24,134	△246
年度末給水戸数 (戸)	9,714	9,687	27
年間配水量 (m ³)	2,961,794	3,010,451	△48,657
年間有収水量 (m ³) ※	2,207,397	2,254,480	△47,083
有収率 (%) ※	74.5	74.9	△0.4

※「有収水量」とは漏水などを除き、料金収入になった水道水を意味する。

※有収率 = 年間有収水量 ÷ 年間配水量

(供給した水量のうち、料金が徴収できた水量の割合を示す指標で、水道事業の効率性を表す。)

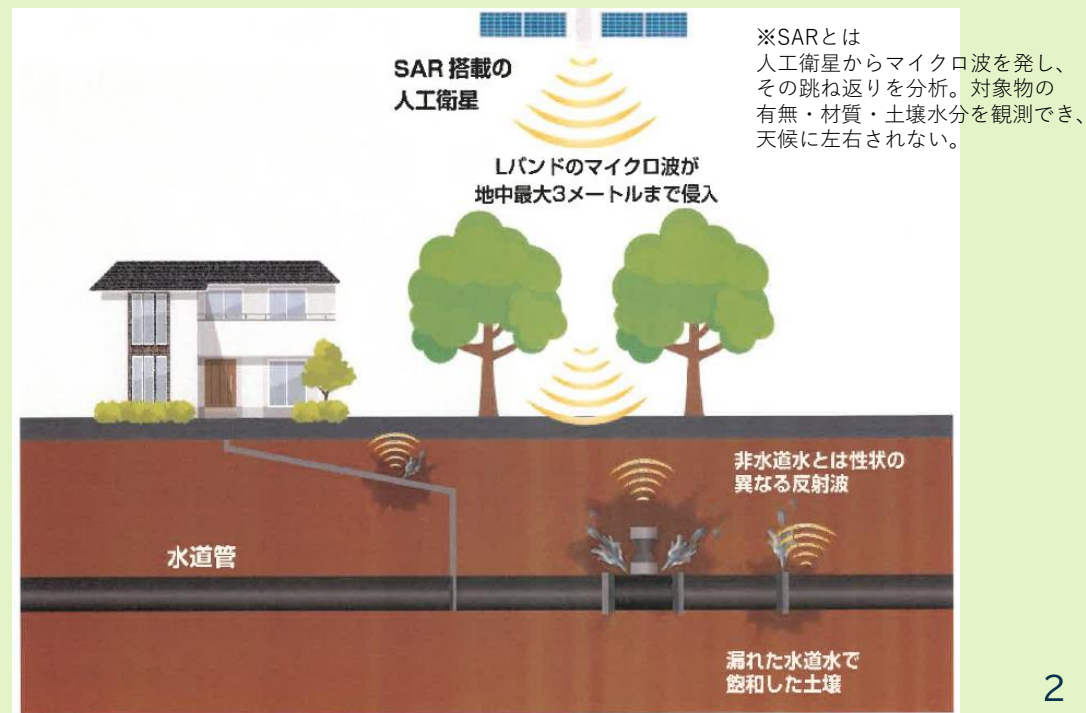
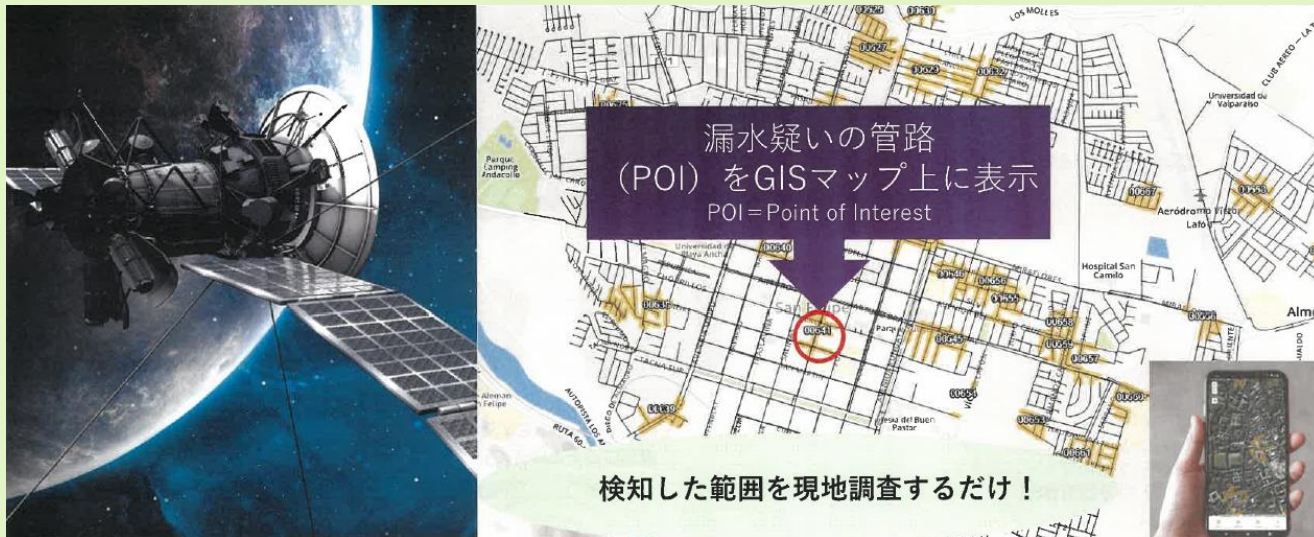
- ・ 給水人口、年間配水量、年間有収水量ともに減少傾向にある。
- ・ 有収率が低下しているということは、漏水が増加していると考えられる。

【概要・目的】

給水区域内の衛星データをAIで解析し、漏水の疑いがあるエリアを数段階で評価した情報に基づき、漏水調査を実施する。

これにより、これまで広大な給水区域をいくつかに分け、複数年のサイクルで全域にかけて実施してきた調査方法から、漏水の疑いがある絞られた範囲のみを調査するだけで済み、調査効率化が図れるとともに、漏水の早期修繕による二次災害防止と有収率向上につなげる。

【システムイメージ】

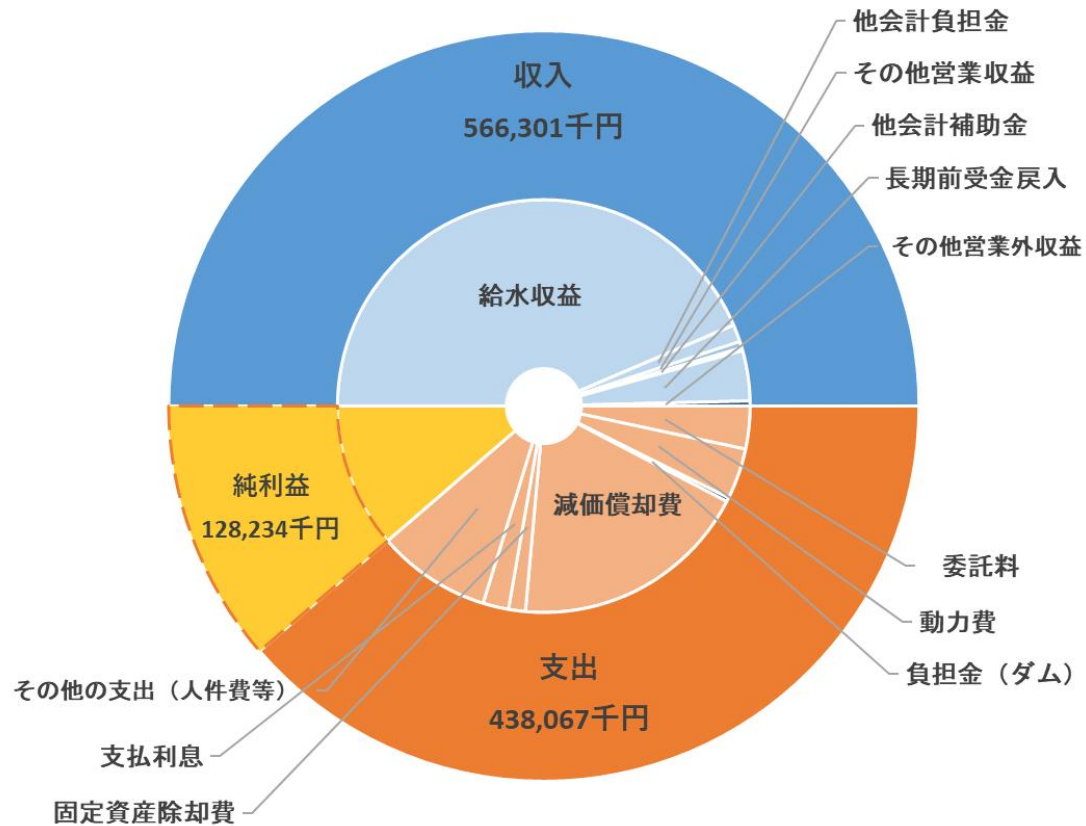


令和6年度鹿島市水道事業決算の概要

■収益的収支の状況（税抜）

※収益的収入・・・日常的な事業運営から得られる収入であり、主に水道料金収入（給水収益）や一般会計からの補助金などがある。

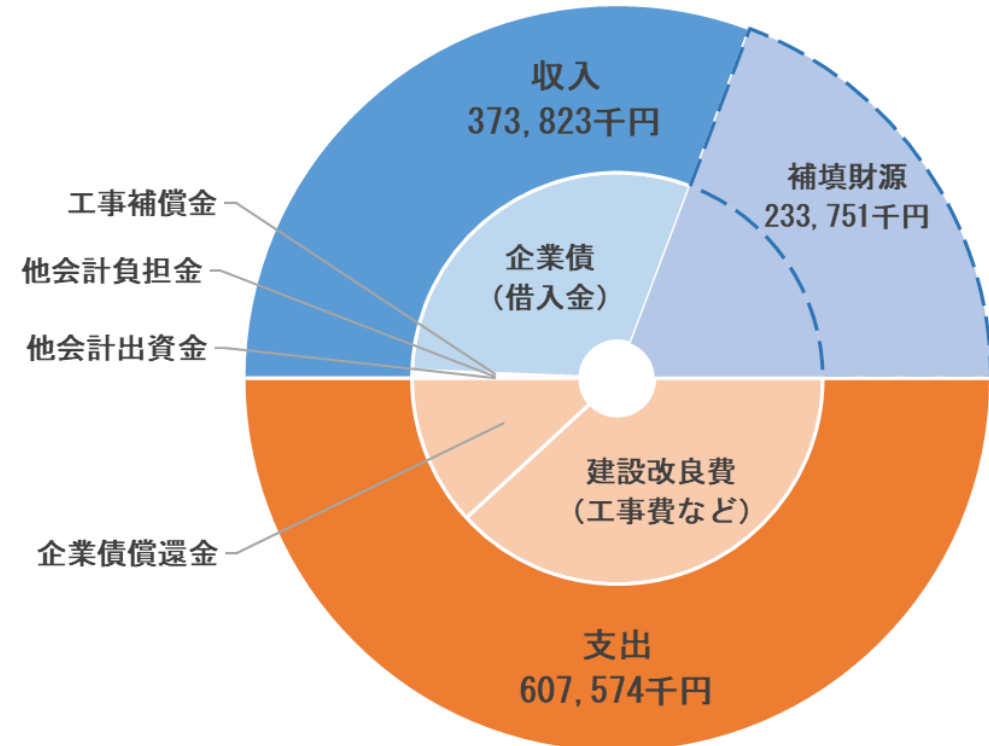
※収益的支出・・・日常的な事業運営で発生する支出であり、人件費や施設の維持管理費、水道検針に係るメーター交換や検針員の委託料などがある。



■資本的収支の状況（税込）

※資本的収入・・・設備投資など長期的な事業の財源となる借入金などの収入。

※資本的支出・・・水道管の更新や耐震化、機械設備の更新などにかかる支出。



令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 収益的収支の特徴

決算書P5・P28～32参照

(1) 収支の比較

(税抜：千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
収益的収入※	566,301	536,182	30,119
収益的支出※	438,067	462,998	△24,931

※収益的収入・・・日常的な事業運営から得られる収入であり、主に水道料金収入（給水収益）や一般会計からの補助金などがある。

※収益的支出・・・日常的な事業運営で発生する支出であり、人件費や施設の維持管理費、水道検針に係るメーター交換や検針員の委託料などがある。

●主な要因

【収入増】

- ・料金改定による給水収益の増
- ・中木庭ダム負担金に伴う一般会計繰入金の減

【支出減】

- ・委託料や県に支払う中木庭ダム負担金の減

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 収益的収支の特徴

決算書P5・P28～32参照

(2) 収入の内訳

(税抜：千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
給水収益 (水道料金収入)	493,669	461,368	32,301
他会計負担金	15,345	13,079	2,266
その他営業収益 (手数料など)	5,651	6,643	△992
他会計補助金	2,607	10,275	△7,668
長期前受金戻入※	44,573	42,546	2,027
その他営業外収益 (雑収益など)	4,456	2,271	2,185

※長期前受金戻入・・・固定資産を取得した際の財源となった補助金を、その資産の耐用年数の期間に振り分けて収益化したもの（会計上の処理で現金収入はない）

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 収益的収支の特徴

(3) 水道料金改定による影響

- ・ 令和 6 年度決算値（調定件数）を基に令和 6 年 8 月期～令和 7 年 3 月期を料金改定後の新料金と料金改定前の旧料金で算出し、比較した

（税抜き）

新料金の調定額 (A)	旧料金の調定額 (B)	(A) － (B)	(A) / (B) × 100
341,544千円	299,855千円	41,689千円	113.9%

【参考】

- ・ 令和 6 年 7 月使用分から水道料金を15%値上げした
- ・ ただし、令和 6 年 8 月期（6 月～7 月使用分）は旧料金と新料金で算出した額の合計額を1/2している

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 収益的収支の特徴

決算書P5・P28～32参照

(4) 支出の内訳

(税抜：千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
委託料	37,952	54,865	△16,913
目毎内訳	(原水及び浄水費：9,500) (配水及び給水費：16,112) (総係費：12,340)	(原水及び浄水費：8,842) (配水及び給水費：36,397) (総係費：9,626)	(原水及び浄水費：658) (配水及び給水費：△20,285) (総係費：2,714)
動力費	45,182	39,196	5,986
負担金（ダム）	3,550	14,231	△10,681
減価償却費※	212,629	211,988	641
固定資産除却費※	14,982	7,747	7,235
支払利息	22,825	25,359	△2,534
その他の支出 (人件費等)	100,947	109,612	△8,665

※減価償却費・・・固定資産を取得した際の費用を、その資産の耐用年数の期間に振り分けて費用化したもの

※固定資産除却費・・・布設替後の管や廃止した施設などを帳簿上から除却する費用

(上記のどちらも帳簿上の処理で原則現金支出はないが、解体費用は除却費より支出する)

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 収益的収支の特徴

決算書P5・P21～22参照

(5) 当年度純利益

(千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
当年度純利益	128,234	73,184	55,050

・ 純利益は減債積立金に98,234千円、建設改良積立金に30,000千円積み立てる。

(6) 給水単価・給水原価

(円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
供給単価※	223.64	204.64	19.00
給水原価※	178.26	186.42	△8.16

※供給単価：1m³あたりの売値（給水収益÷年間有収水量）

※給水原価：1m³の水を作るのにかかる費用 {（経常費用－受託工事費－長期前受金戻入）} ÷ 年間有収水量

- ・ 供給単価は、主に料金改定に伴う給水収益の増加より増加した。
- ・ 給水原価は、経常費用の減少により減少した。

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 資本的収支の特徴

決算書P3～4・P33～35参照

(1) 収支の比較

(税込：千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
資本的収入	373,823	124,464	249,359
資本的支出	607,574	347,884	259,690

※資本的収入・・・設備投資など長期的な事業の財源となる借入金などの収入。

※資本的支出・・・水道管の更新や耐震化、機械設備の更新などにかかる支出。

●主な要因

【収入増】

- ・建設改良費（工事費）の増による企業債（借入金）の増

【支出増】

- ・建設改良費（工事費）の増

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 資本的収支の特徴

決算書P3～4・P33～35・P44～45参照

(2) 収入の内訳

(税込：千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
他会計出資金	1,506	5,718	△4,212
他会計負担金	3,260	1,260	2,000
工事補償金	2,757	11,686	△8,929
企業債	366,300	105,800	260,500

(3) 支出の内訳

(税込：千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
建設改良費	463,538	180,513	283,025
企業債償還金	144,036	167,371	△23,335

※令和6年度第20号（肥前鹿島駅付近）配水管布設替工事（17,380千円）、久保山配水本管及び大村方導水管設計業務委託（40,150千円）、久保山配水本管更新工事（47,850千円）は令和7年度に繰越しました。

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 資本的収支の特徴

決算書P3～4・P25参照

(4) 収入額が支出額に不足する額

(千円)

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
収支不足額	233,751	223,419	10,332

※資本的収支の不足額は、内部留保資金により補填する。

【令和 6 年度補填財源（内部留保資金）の内訳】

①当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 40,643千円

（資本的支出に係る仮払消費税 － 資本的収入に係る仮受消費税）

②当年度分損益勘定留保資金 182,598千円

（減価償却費・固定資産除却費 － 長期前受金戻入）

③減債積立金 10,510千円（企業債の償還のために純利益を積み立てたもの）

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 経営指標

決算書P13～15参照

事項	令和 6 年度	令和 5 年度	比較 (R6-R5)
①経常収支比率	129.27%	115.81%	13.46
②料金回収率	125.46%	109.77%	15.69
③有形固定資産減価償却率	60.52%	61.34%	△0.82
④管路経年化率	8.87%	7.63%	1.24
⑤管路更新率	0.90%	0.55%	0.35

①経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているか示すもので、100%以上である場合は、経常利益が生じていることを意味する。

②料金回収率は、事業に必要な費用を給水収益で賄えているかを表すもので、100%を超えているほどよい。

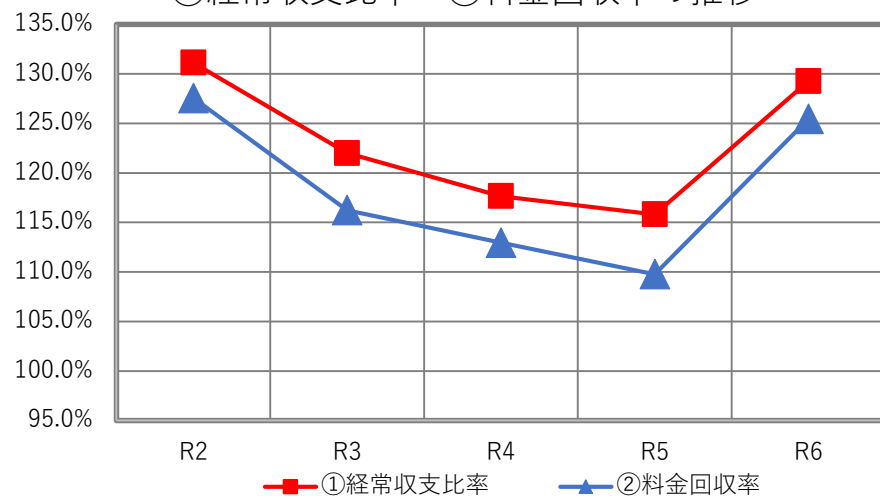
③有形固定資産減価償却率は、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表すもので、資産の老朽化度合いを示している。一般的に数値が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。

④管路経年化率は、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を表す。

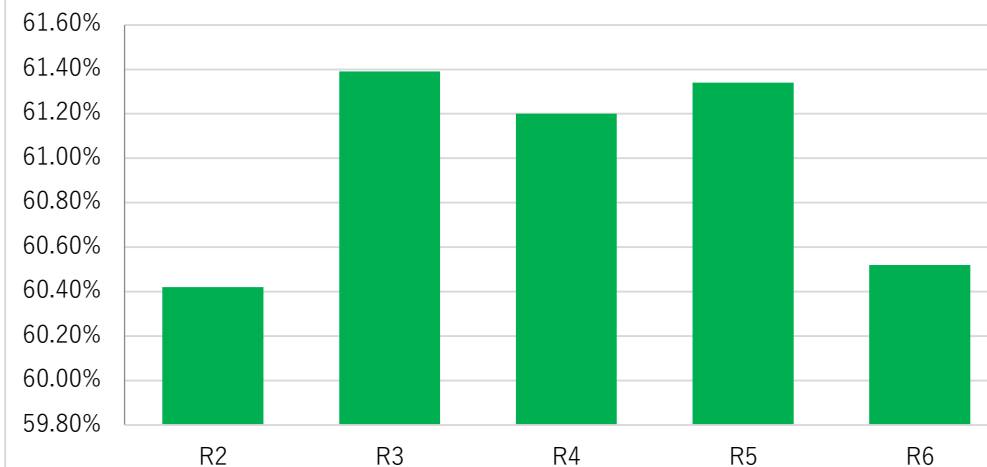
⑤管路更新率は、当該年度に更新した管路延長の割合を示す。

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

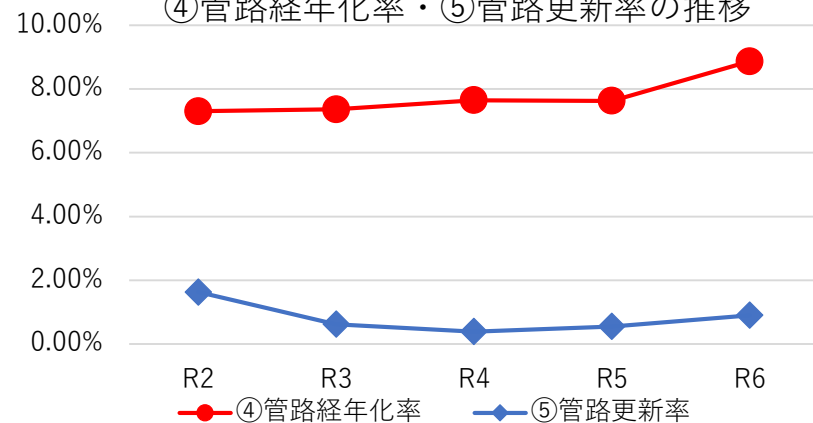
①経常収支比率・②料金回収率の推移



③有形固定資産減価償却率の推移



④管路経年化率・⑤管路更新率の推移



①経常収支比率 (%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

②料金回収率 (%) = 供給単価 / 給水原価 × 100

③有形固定資産減価償却率 (%) = 有形固定資産減価償却累計額 / 償却対象資産 × 100

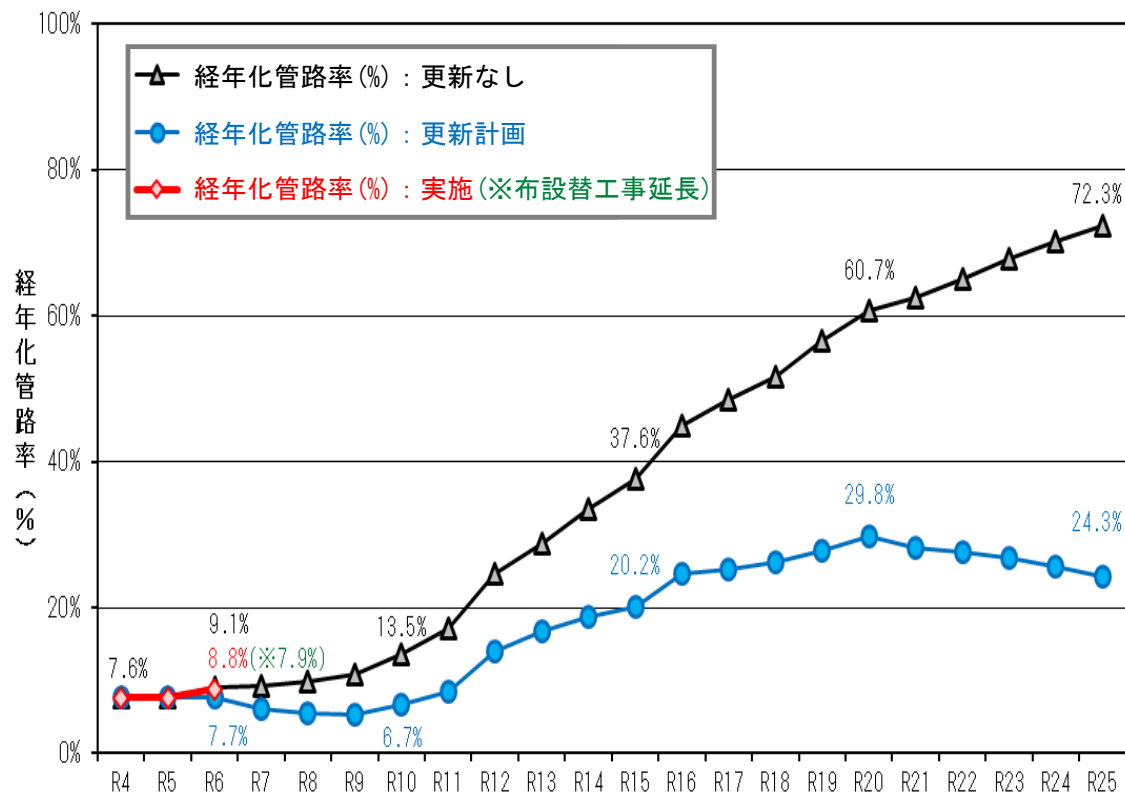
④管路経年化率 (%) = 法定耐用年数を超過した管路延長 / 管路延長 × 100

⑤管路更新率 (%) = 当該年度に更新した管路延長 / 管路延長 × 100

令和6年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 管路更新の進捗状況

経年化管路率の推移



令和6年度 布設替工事 延長内訳

R6	管路布設替延長 (m)		
	配水管延長	導送水管延長	延長 計
布設替	1,849.30	192.90	2,042.20
	内訳 老朽管		1,223.80
	漏水対応		364.40
	他事業		454.00
工事済み未供用分		1,348.10	1,348.10
合計	1,849.30	1,541.00	3,390.30

基幹管路耐震化率

	R3	R4	R5	R6
耐震化率	2.2%	5.2%	18.7%	24.4% ※
布設替延長	1,535.0m	988.5m	1,411.9m	3,390.3m

※R5策定の更新計画により、R6から耐震適合管含む。
(R5まで耐震管のみ)

令和 6 年度鹿島市水道事業決算の概要

■ 今後の課題

- ✓ 有収率が「中長期財政計画」の目標値79.3%を大きく下回っている。漏水調査を実施し、早期の修繕や更新に努めて有収率の向上を目指す。
- ✓ 料金改定により給水収益は増加したものの、給水人口、年間配水量は減少傾向にあり、収益の大幅な増加は見込めない。今後、建設改良費も物価高騰の影響を受けて費用の増加が見込まれる中、収支のバランスを考えた計画が必要となる。
- ✓ 令和 7 年度中に「水道事業ビジョン」及び「第2次中長期財政計画」を策定する中で、経常経費等の見直しや企業債残高の基準（借入金の適正な割合）、料金見直しの時期などを検討することとしている。